

第37回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成30年3月30日（金） 14：00－15：40
2. 場所：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
山川部会長、松井部会長代理、青木委員、中須賀委員、中村委員、
山崎委員、渡邊委員
 - (2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）
高田事務局長、行松審議官、山口参事官、須藤参事官、高倉参事官、
佐藤参事官
 - (3) 関係省庁等
総務省国際戦略局宇宙通信政策課長 翁長 久
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課宇宙利用推進室長 庄崎 未果
4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）
 - (1) 調査分析・戦略立案機能の強化とリモートセンシングの今後について
資料1に基づき内閣府から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。
 - リモートセンシング衛星は、民間で高分解能の衛星が出てきており、海外でも様々な衛星が開発・運用されており、さらに我が国でもSLATSのような先進的な技術開発も進んでいる。このように大きな動きがある分野であることから、さまざまな動きを踏まえて戦略立案を進めていくべき。
 - 調査分析・戦略立案機能自体をどうするのかという事も重要な課題である。この2カ年は大学教授などの専門家に大変な尽力をいただいたが、そのような体制を継続することは難しいため、調査能力を持つ組織に継続的な調査をしてもらい、それを基に専門家に検討いただくような体制が良いのではないか。
 - 宇宙開発全体を一つの組織で調査するというやり方もあるが、専門性の観点から難しいところもある。その場合、分野毎に機能を分けるようなやり方も良いように思われる。
 - 調査分析で得られた情報は、S-NET、S-Booster など利用促進の取組との、情報共有と連携を進めていただきたい。

(2) 宇宙基本計画工程表の中間取りまとめについて

資料2に基づき内閣府から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○調達制度の検討の状況は。

●確定契約を推進するため、価格算定能力の向上にむけて米国の取組を勉強しているところ。例えばWBS（ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャ）を用いて工程を細分化して管理する手法や、リスクを評価する方法などを調査している。

○知財については新しい取組と思われるが、どのようなことを予定しているのか。

●経済産業省と協力して、夏ごろまでに海外の知財の獲得状況等を調査したうえで、今後知財戦略をつくっていきたいと考えている。次回以降で具体的な内容を説明できればと考えている。

(3) 4次元サイバーシティの検討状況について

資料3-1、資料3-2に基づき総務省から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○検討会の中で、それぞれのアイデアはどのように扱うのか。

●提案があったアイデアのうち、公開可能なものを提案者からご説明いただいている。検討会ではリモートセンシングやデータ利活用の専門家の方がおり、その場が意見交換や、提案のマッシュアップ、マッチングの場になってくれればよいと考えている。そのうえで、内閣府や経済産業省、総務省等のスキームへの提案につなげていければと考えている。

○航空機や地上のデータとの組み合わせは考えているか。

●衛星のデータと航空機や地上のデータにはそれぞれにコスト面を含めてメリット・デメリットがある。また、衛星のデータだけではできないアプリケーションが多く、それら地上系や航空機のデータとの組み合わせも想定している。

(4) ISEF2の開催結果について

資料4に基づき文部科学省から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○国際宇宙探査は、各国の計画を持ち寄ってすり合わせていくものと想定しており、我が国も技術等を精査して提案していくと思う。各国で利害関係がぶつかるときもあると思われるが、国際調整の仕方はどのようなやり方を想定しているか。

●今の段階ですぐに想定されているものではないが、仮に問題があった時

には個別に協議しながら進めていくものと考えている。今後議論をしていくなかで枠組みができあがっていくものと想定している。

以 上